

## 在特会の論理（25）

——勉強サークルとしての在特会に参加したY氏の場合——

樋口直人

徳島大学総合科学部

### Logics of Zaitokukai Activists (25)

The Case of Mr. Y

HIGUCHI Naoto

University of Tokushima

#### 1. 経緯

本稿は、2012年5月12日に在日特権を許さない市民の会（在特会）に参加するY氏（40代男性）に対して実施した聞き取りを、意味が伝わりやすいように適宜並べ替えて再構成したものである<sup>1</sup>。彼は公務員で、後述するように初期の頃から在特会に関わりつつも、未だ入会していない。その意味で第三者的な意見も多い。以下では、W氏の言葉をそのまま用いて活動家としての経歴をたどっていきたい。

#### 2. 政治に対する関心

あるのかないのかと言われるとないですね。一般的なものはあるでしょうし、その時の消費税がどうのこうのとか、そういうときにはもちろん関心は出ますよ。ただ、全体的に当事者としてどうのこうのというところまでは、そんなに深い意味ではない

です。こうしなくてはいけない、ああしなくてはいけないというのは、私の解釈ではあまりないです。なぜかという、悪法でも法は法なので守るべきだ、と私は解釈しています。もちろん仕事柄もありますけど。それからいうと、今は不満があるからそれはおかしいんだよ、声を上げるところまではしたとしても、それはただ必ずしも証明するのではなくて、自分のなかでこういう解釈を持っているよという、そこまでですね。ではどうするの？という、一番いいのは議員さんになるとか政治家になるしかないんですから。

（投票には）もちろん行きます。昔から。私は——ある意味、義務です。ただ、大前研一さんの話だったと思うんですけど、投票しないということはその人の意思表示をしないことであって、そうすると国家が予算でいろんな執行をすることに対して自分で意思表示をしていないことなんだよと。結局、税金というのは所得の再配分でしかないわけですね。それで予算をするわけですから。で、それを1人あたり100万円お金を使うんだよ、なんだかんだ有形無形で100万円も使われていると。それを自分で放棄する形じゃないか、というのになるほどなと思ひまして腑に落ちて。寝坊してもちゃんと行くように、真面目に。

（支持政党は）特にないですねと言いたいところですが、今は消去法で自民ですね。（昔から支持政党は）特にないです。こだわる必要もないじゃないですか。是々非々という部分がありますし、今の状況について

<sup>1</sup> 徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部 (higuchinaoto@yahoo.co.jp)。これまでのまとめとして、樋口（2012a, 2012b, 2012c, 2012d, 2012e, 2012f, 2012g, 2012h, 2012i, 2013a, 2013b）を参照。これらはまとめて、樋口（2014）の資料編として位置づけられる。本稿も含む一連のまとめでは、聞き取りの中で発せられた差別的な言葉や見方をそのまま掲載している。資料としての意味を損ねないゆえのことであるが、それが苦渋の選択であることはご理解いただきたい。

大幅に不満がないならば、今の政権与党に投票するのが通常感覚でしょうし。比べようと思えば比べられるわけですね。（投票先は）あんまり考えてないですね、20歳くらいの時には寝坊して行かなかったこともあるから。

かといって職業柄、どこそこに入れてくれというのはですよ、ないわけじゃないけど。そんなの関係ないですね。実際私はあの、職員組合の事務所に行って堂々と推してる——うちの組合としてはこの政党ですよと聞いていながら、私は「嫌です」と答えて——非常に私は俗な人間なんで。別に革新政党がどうのこうのというのを気にしたことはないです。最初からいくと90年代だよな……あのときひどかったもんな。森さんの時には確か自民党に入れなかった気がするな。だってハワイでゴルフしちゃだめでしょう、本当に。あれはちょっとおかしいなと思う時があるけど。

でも、それから歳もとりましたし、冷静に考えると執行能力というところまで判断する必要がありますよね。政策理念、それも確かに大事ですけどね。実際にそれを——絵に描いた餅をちゃんと、せめて形にしてよというところまでいかないと。そうするとやはりどうしても、保守的な解釈になると思うんですよ。へんな話、今現在の民主党がなぜだめなのかということですよ。何も——理想は確かにとてもいいし、決してそれを実現できないほど能力がないわけでもない、人もたくさんいるし。実際、市民団体上がりの方々もいたみたいですけど、ああいうのでなくてむしろ高学歴な方がたくさんいるわけですから。でもできなかった。それはやはり、別の意味の執行能力のなさじゃないのかなと。それは問題だろうなと。で、そういうのをもう実際に見てしまったわけですね。日本新党という例も含めて。

そうすると、やはり変だけでもいきなりがらっと変わるというのはまずいんじゃないかなと。やはり、既存の政党、実績のある政党か、不満はあるけれどもちゃんとまわしてくれるところにやってもらわないといけないのかなと。明日の晩ご飯はステーキだよと言いながら、結局握り飯しか出されなかったら困るわけですね。それくらいなら、握り飯しか出せないくらいなら、昨日までのちゃんとご飯に味噌汁つけてくれと普通は思うんですよ。ご飯と味噌汁、飽きたけど、まだご飯と味噌汁の方がよかった。お

にぎり1個じゃやだよ、そういうもんじゃないですかね。そうすると、やはり変化を求めないというか、積極的な支持じゃないにしても、やはり消去法で選ぶのはそういう形になってしまうのかなと。

むしろあの人（在特会の人）なんかは、私は認めてない、存在として認めてないけど、ネットで新風というのが出てた。あれがなんでいいのかまったくわかりませんね。別にそういう口調でどうのこうのって今更引っぱり出してどうするの。死にかけのミイラ引っぱり出してどうのこうの言ってどうするのだろう。それならまだ今とりあえず生きているやつ（自民党）の、こねくりまわしている方がまだましと。昔の方が良かったというのは、それはありますよ。給料高かったし。そういうのはありますけど、そういうのじゃなくて昔の制度が良かったとは私は思いません。確かに今の制度、やはり進化しているわけです。進化を否定するというのは、私はおかしいのかなと。おかしかったらまた変えりゃいいわけですよ。

（皇室についても）男系だろうと女系だろうと私はかまわない。もちろん、それは続くべきだと思ってますけど、男系女系のことを考えていた時に思ったのは、これって話だいぶ飛びますけど、車は好きですか？日産のSkylineという車が、あれがゴーンさんが来てから変わっちゃいまして。正確に言うとエンジンの形式が変わっているんです。ネットとか見るとすげー非難轟々だったんです。ただ、冷静に考えれば名前が残ればいいんですよね。へんに昔にこだわってもダメなんだよ、というのが私の考え方ですから。

もちろん、伝統というものはいいですよ。それはいいですけど、懐かしんでいるのとは違うんですよ。生まれる前のことなんて、わかんないじゃないですか。そこにこだわってどうするんだよ。そこを昔は良かったと言われても、昔知らないんだから、40年しか生きてないんだから、こっちは。ただ、じいさんから戦争の話は聞きましたけどね、それは関係ないじゃん。話は話として。揚子江ですね、刀くわえて泳いで——うちのじいさんは泳ぎが達者だったらしいんで——そのまま泳いで行って揚子江に浮かんでいる船のスイカをいっぱい積んでいるシナ人の上ってわーっとおどかしてから、積荷ごとちょうだいというなかなか豪快な話を聞いたことはあるんで。それは私の思想において、特に（影響）ないでしょうね。だから当時の日本はよかったとまでは私は思いません。悪くなかったけど、そ

こを目指すのは話が別ですよ。

### 3. 外国人との接点

(外国人との接点は) ないです。まったくないと考えて結構です。ですから、いわゆる見た目の変わらない方たち、在日の方とかいませんし。ガイジンといって外国人の方と仕事したということも。もちろん私の職場であれば、講師で来られる時があるんですね、しかも長期滞在することもありますから。ただ、そういうときでも部署が一緒でなかったのも、そういうでもないです。だからその意味でまったくない。

### 4. 在特会につらなる関心

根となると、あのときはネット(普及)前ですね。私が一番なっていくとなると、やはりあれはいつ頃ですかね、90年代、2000年が近づいてくるあたりになると、北朝鮮のことが出てきてあのへんの話が、右翼左翼とか何とかの関係でかなり出てきた記憶があります。そういうのが出てきて、ああいう今の体制は違うんだよ、なんでこういうのを礼賛するのか、礼賛する左翼の方々がいるのかな、というのがあって。自分はこういうのおかしいなと思ったのはあります。ただ、それで私たちが受けることはあくまでも、本とか何とかから来る知識の収集しかないですよ。で、それからネットというのが出てきて。そうすると今度は証明ができるわけです。で、あとその紙媒体にならない個人の意見がいっぱい聞けるようになるわけです。

(ネット掲示板を使うようになったのは) いったらうな…私、やっぱり Windows 95以降だったと思うんですよ、時期的には。ダイアルアップでしてたんで、確か記憶があるのが気づいたらアフリカのどこかの国に高額請求がどうのこうので、あれが社会問題になるくらいだったと思うので。十分こなれた時期だったと思うんですよ。

私もそのときダイアルアップ回線だったので、なんか変なですよ。アダルト系のバナーを間違えてクリックすると、つるつるってあっという間に…見たらダイアルアップのやつが新しくついていて、「あれ? まずいまずいこれは消そう」って。そこらへんはある程度、ある程度コンピューターとか扱うのはそんなに。その当時でも別に先端じゃないけど、

人並みには使って。最初の部署がコンピューターでプログラム作る場所だったんです。まあ職場で、おかげでプログラム言語を使って、数十万件の土地の値段を決めるとかね。だからそういうロジック的に「あれ?」というのが嫌いです。だから、話とか聞いていても、主語がないような話というのが大嫌いですね。もちろん、2人で話すと絶対主語なくなるんですよ。なくなるけど、途中途中でなんだったかなと考えるんですよ。

(北朝鮮に対する関心は) 確かですね、あれはこれまた俗な本ですけど、テリー伊藤の『お笑い北朝鮮』だったと思うんですよ。けったいなものがあるな一つて調べたら悪評ばかりじゃないですか。うわー、こんなものがあるんだ。ミサイルがどうのこうの…まったくこいつらは。(金) 日成さんが死んだのは90年くらいだったんですよ。それくらいですよ。あそこから、確かお笑いなんとかはその前だったという気がするんだよな。2ショットの絵とかいっぱい載せて、きっとそうだと思うから。

本格的になったのは、私が従軍慰安婦関係のやつですか、ただ最初の従軍慰安婦のあれじゃないんですよ。90年代以降の2回目ぐらいに盛り上がった後だったんです。一番最初、70年代か千田ナントカさんですね。その後、吉見さんの本買いましたから。薄っぺらい岩波新書のやつと、6000円くらいの大月書店のやつ資料集成と、議論の時の基礎資料として。で、多分その後韓国が謝罪しろというのを蒸し返したのが、90年代ちょっと過ぎてからだったと思うんですよ。ダイアルアップでその時に接続してたのが、韓国生討論といういくつか掲示板があって、そこの管理人がDoronpaさん<sup>2</sup>だったんです。だからあの時の議論は従軍慰安婦についてという、スレッドの2つ目から3つ目まではとてもいいけれども、それから先は大したことないです。何回も書き込むんですけどもね、私も。だからDoronpaさんは早くから知ってるんです。で、そういうのがあるから私は未だに首突っ込んでいます。最近「ちょっとなー」というのが多いですけどね。何年前かな…8、9年前ですね。あのときはTele放題使ったり、Tele放題入る前は、とにかくお目当てのページが出たら、お目当てのホームページにつないで、そこをテキストでコピーしてばーっとハード

<sup>2</sup> 桜井誠のハンドルネーム。

に貼り付けて、すぐに切ると。一晩放置したら進んでからですね。それで考えてと。

指環さんという素晴らしい人がいまして。指環というハンドルネーム。あの方が掲示板などでこういうのがある、あなたが言っていることはおかしいんだよと、ば一っと出てきたので。何だろう何だろうと思って調べたんですけど、だからネタ元を調べたんです。これが資料ナントカというんだよ、まったく同じ文言が吉見さんの資料集成に書いてある。なんだパクリじゃないか、同じこと書きやがって、こいつは。一番問題になったのは、もちろん有名な一文がありますけれども、昭和12年シナの方、そっちの方で日本の駐留で、もちろん大きな基地があって、そこの中に利用規程のようなものを書いたのがあって。これをもって慰安所というのがあったんだという証拠にしてあるんですね。で、それを読むと「ああ、日本が慰安所を経営してたんだ」という考えがするけれども、よくよく見たらこういう風なのがあるんだよという書き方しかしてないんです。

で、「え？」と思ったんですけど、それがわかったのはその分厚い本を買ってからなんです。ネットでのやりとりでは、結局わからなかったんです。もちろん全部を載せてなかったというのがあります。断片しかないと、誰も現物を検証してなかったから。現物を検証すると、どうも違うなと。ただ最初にば一っと読んだら、「あ、まずいな」と思ったんですけど、2回3回と読むうちに「あれー、おかしいな」と思って。その資料の解説のところに遡ってみると、これは昭和12年に慰安所が存在した資料である、それしか書いてないんですよ。経営したと一言も書いてないんですよ。おかしいな。似たようなのが——それから1週間くらいたってから、上海から中国内地の方でも同じような通知があったんです。これはよくよくみたら日付も一緒だし、文面も一緒だから、完全に大きな所から小さな所にいって、小さな所は自分の配下のところに改めて文書を送ってただけじゃないか。単なる事務連絡じゃねえか。そういうのを見てから、やっぱりネットの情報とはっかかりにはいいけれども、現物見ないとだめだなと。まあ、そのスタンスを私は極力今も変えないように。

（そこまで調べたのは）悔しかったからですよ。簡単にそうでしょ。本当なのかな、とももちろん知的好奇心的なもの、その見解っていうのはじゃあな

んで今まで出なくて、こんないきなりつかかってきた普通の個人がいうんだよ。学者誰も何も言ってねえじゃん。——私はその、学者さんに勝てないと思っっているのは、1の言葉を発する時には後ろに知識が10くらいあって、10の知識のために100も1000も本を読んでいるんだから勝てるわけがない、本来は。結局そうでしょ。だから学者さんたちをその場でやり込めるんだったら奇襲しかないわけだから。次にリベンジマッチされたら絶対に負けるんだから。準備したら、向こうが本気で準備されたら負けるからね。私たちがいくらがんばっても、相撲取りと相撲取っても勝てないのと一緒にですよ。相撲取りに不意打ちで後ろからドンと押したら土俵の外に出せるかもしれないけど、普通にしたら絶対勝てない。

だから私は慰安婦のスタンスとしては、最初に言っていた人たちは「いわゆる慰安婦の人はいました」と。その言葉を使うのが一番わかりやすいからですね。よく言われますけど「戦時売春婦」ってなんで言葉言い換える必要があるのか、言い換える必要ないじゃん。あえて口汚く言う必要ないわけじゃないですか。だから私も中国をあえてシナと言い換える意味がわからない。中国でいいじゃないですか。歴史的な経緯なのであればシナでいいでしょうけども、今の中国をなんでシナって言い換えるんだよ、意味ねえじゃん。そういう意味ではあまり過去にこだわらない人ですね、私は。シナって学校で習ってないですし。

私はそこ（慰安婦問題）がとっかかりだし、その時が一番がんばったですね、ある意味で。勉強したんで。まあ、結論出るわけないんですけどね、今更。双方の主張が絶対に合致するわけがないんで。良くて平行線です。重なるかなという角度が違うだけです。ベクトルがずれて重なっているから意味がない。それを言葉尻でああだろうとこねくり回しても一緒でしょ。

（調べていたのは）多分1年は間違いないけど、2年か3年まではいってないでしょうね。そこまでいくとネタ出尽くすじゃないですか。しかも私たちみたいな一般の人に調べられることに限界が出てくるんですよ。読んでない本は本屋さんに行けばいくらでもあります。でも、新たなやつが出てきても非常にイデオロギー高すぎて、資料性がどうしても弱いじゃないですか。常にそういうイデオロギーのもとに、右にしろ左にしろその上にあるから。吉見さんの慰安婦資料集成、あれみたいに資料をそのまま羅列したものじゃな

いから。それはやはり納得できないですよ。そういうやつ。それじゃないのだと無駄な情報が多すぎるから、それはいらぬ。まあ、若干技術主義的な部分も私はあるので、プログラムを組むとどうしても仕様書を見た時の方が早いこともある。何で動かないかなって。私たちが手に入れられる資料ってそれくらいしかないじゃないですか。今はアジア歴史資料センターで PDF 化されているから、見ようと思えば見られるんですけど、もう探す気ないですよ。自分の関心は移ってるんで。

(北朝鮮と慰安婦の話は) まったくリンクしませんね。私もそれを結びつける気もないし。そういう風に議論を広げたくないからですね、関係ないことを。右翼的なことというのであれば、北朝鮮とかそういうのは、その時にいっぱい本が出たからですね。考えてみりゃ『SAPIO』結構買ってた気がするな。『諸君!』は面白かったけど、『正論』はちっとも面白くないし。『諸君!』は意外とまともなこと書いてあったけど、『正論』はつまんないもん——産経新聞は信用してないから、絶対に。(『諸君!』を) 読みましたね、買っていましたね、確かに。やはり私は紙媒体を信用するからですね、ネットよりも。たまたま面白い特集があって、2、3回連続で買ったら、多分その後はある程度惰性の場合と、あと私は雑誌買う時に1年買わなくちゃいけないと思ってるんで。1年でだいたい特集一回りするんで。

産経新聞は信じないんです。産経新聞が出た後に続報で出れば。朝日新聞が出れば一発で信じますけど。へんな話ですけど、右翼的な活動に付き合っているし、基本的な思想は私も保守的だと思うんですが、ただああいう風な自分たちで保守と言っているあの人たちの媒体というのを、必ずしも信用しないので。やはり誰がなんと言おうと、新聞を一紙しか取っちゃダメだよと言われたら、私は迷わず朝日新聞を取りますね。今は違いますけど、昔はうちのじいさんがいてから、じいさんが権力あった時になぜか朝日だったんですね。別に天声人語読んじやいなかったですけど。小学校の頃だから。でもやっぱり、一番ある種クオリティペーパーといわれたら、朝日じゃないかと私は思ってます。実際はわかりません。ただ、私の中ではそう思ってますから。産経はどうもいろいろ見たら、誤報も多いし信用できねえもん。まあ、だいたいネットで取り上げられる、ネット右

翼の喜ぶ情報は信用できねえ。だから去年の夏だったかな、朝鮮学校の補助金の東京の補助金が不正に利用されてるよと出ましたけど、後追う記事1つも出てないので信用してません。関係者のインタビュー、私はあれ絶対に信用してないことにしている。

## 5. 在特会への参加

(その後も桜井の) ブログは結構見てました。まあ、眺めるというか。ただ内容的にどうのこうのじゃなくて、むしろあんた字間違えているよという指摘を何回かしたくらいですね。会則こう作るのに、会則間違ってるじゃないか、とその視点から文句ばかり言ってますよ。そんなこと、意思表示するようなことはなかったです。議論に加わって——コメントいっぱい出てるじゃないですか。(できるときには) 知っていましたし。

確か会長がどっかで宣言したと思うんです。探して見つからないので、多分講演会で言ったのかもしれない。ただ、あの頃はまだニコ生なかったから、何かで発言した文章じゃないかと思うんですけど。あの人が最初言ったのは、既存の保守云々って当時は非難はされてなかったんですけど、自分たちは自分たちのやり方でやるという、当時のネットを使うというのが邪道の時代だったんですね。既存の保守の方に応援してくれとは言わないけれども、足を引っ張らないでくれと。それには非常に好感を持ちました。

ただ今、足引っ張っているのが在特会ですから。何やってんだよ。だから、多分あると思うですよ。結構街で街宣されてますけど、名前出せないですよ。普通の会社員が在特会の名前を出せるはずがない。ちょっと調べりゃすぐわかつちゃうんだから。本当に何やってるんだろうという感じ。私自身が右も左も関係なくフレキシブルに動く人間なんで<sup>3</sup>。とてもフリーダムな人間だから。

最初はお勉強サークルだったんですね。だから私は昔から知ってたのもあって、こういうのができたのを知っていたので勉強会に参加した。それからですね。在特会自体が最初から500人いるんですよ。すごい数だと思うですよ。それから考えるとやはり、最初のネットの入り口というのを門戸を広げればというのが、私みたいなのが引っかかるわけですから。その意

<sup>3</sup> 法学者の前田朗の講演会に出て、講演記録を自らテープ起こししていることを事例として挙げていた。

味では大変私のように入ってくる人もいたんじゃないかな。

（他の団体で）慰安婦に特化したのではないですけど、あれは教科書関係ですね。（そういうのに参加しないのは）なかったからですね。こちら（地元）にはないでしょ。少なくとも門戸が低いのは存在しないです。（拉致に対する関心は）それはまあ一環としてはありましたけど、それに特化することまではなかったですね。募金くらいならしてもいいですよ。でもそこで率先して活動するというのは…もちろんそれが職場で認められるような活動であったとしてもですよ。組合活動みたいなものであったとしても、そこまではいいよと。もっといいのがあればそこに行った可能性は高いですね。その時は在特会だったのが一点と、今の在特会とは違うから。年齢的なものとの関係でそれしかなかった。まあ私も薄々感じてましたけど、『諸君！』とか『文藝春秋』の平均年齢が高い、それはそうでしょう。

私はまったく（参加に際して抵抗を）感じませんでした。私が知らないことも出ましたが、まったく知らないかという、そんなこともなかったからです。私は、人の好き嫌いはないわけではないですけど、別に話す上でそんなに嫌悪する必要もないし。そこら辺は人たらしの人間なんで。別に暴力団の集會に出るわけじゃないんですから。そういうところは出て行きませんよ。それはちょっとぼったくりの店に行くわけじゃないんですから。せいぜい何千円か持って行けば十分ですよ。行ってからちゃんと五体満足で殴られもせず帰ってくるんですから。逆にその後の打ち上げで飲んでから、激高して喧嘩、そういうのは別にいいじゃないかと思うんですよ。その場で切った張ったならいいじゃんかと。私も1回喧嘩しそうになったんですけどね。ちょっと私がチャチャラしすぎただけですけど。

（会員になろうと思ったことは）ありますよ。数度あります。ただ私がなぜやらなかったかという、在特会本体ではなくて、在特会を取り巻く方々——まあ誰とは言いませんけど西村修平です。確かですね、何だかおかしいと思ったのは、確か西村修平が安田さんの本にも書いてあるけども、Doronpaさんが招聘した時って、会ができてから半年くらい後だと思うんですけどね。そのくらいの時に、署名が何かに出てきた時に書いてあったと思うんですけど、

すごいことしてるなと私は思って。で、それからブログをちょこちょこ見たら、「あれ？」と思ったのが何か主権回復の宣伝ばかり出てきて、「え、何で？」と。在特会が今度ここでこういう行動をしますよと出たのに、2つも3つもそっちが出ていたんで、これおかしいんじゃないのと。で、西村修平さんで名前をとる（検索する）と、これはちょっとろくでもない人間だと。そういう人が出入りするのはいずれだろうと。だから、経歴を見ると。それまで社会人だったんだけど、その後完全にどうやら本職右翼になったわけです。それはおかしいだろうと。そういう人たちとつむ団体になるというのは、まずいんじゃないかな。

あと瀬戸ナントカさんとか。あの人はどうやら、見るともっと後ろ暗いっぽいから。活動 B5 のタブロイド紙 5000 円とか Wikipedia に書いてあったけど、これどうみても総会屋の手口じゃないかと。これはどう考えてもシノギだなと。まずいよと。それを他の人はあれ見てから気づかないのかなと思うんですけどね。あそこまでがっちり Wikipedia で書いてあったから、この人は総会屋くずれだと気づかないのかなと思うんだけど、他の人に瀬戸の評価とか聞いたことがないんでわからないけど。こういう人たちが在特会に入り込もうとしているのがちょっとまずい。連携するならまだ良かったかもしれないけど、是々非々で。どうもそれが中に入り込んでどうのこうのになってくると、ちょっと違うだろうと。で、そのうち西村さん——主権の宣伝が減ってきて、何回か経緯もあって。で、入りませんかと誘われるわけです。悪い印象もなく誘われもして、乗り気になってみたら、関西が暴れて。だから 2、3 回メールフォームを呼び出したんですよ。でもちょっと、たまたまトラブルが発生して。メールフォームを呼び出して、一晩考えようと思って、次の日まで自重して、結局そういうのばかりで。

私は門戸が、桜井さんつながりで、桜井さんのホームページつながりです。在特会の中では慰安婦の話が出てくることはないですね。考えが今の活動の内容と関係ないからです。「慰安婦はいなかった」だけの見解しかないんだから。私はいわゆる（「慰安婦」は）いて、問題は国、軍がどの程度関与したかの問題ですから。じゃあ軍、国が関与した証拠はあるのかということ、そこは非常に似つかわしいのはあっても、実際直接関与はないんだよ。であるから、それはひどい話、文句もたくさんあるでしょうけど、それでいうと慰安婦とい

うのはなかったという結論にいてもおかしくはない。そういう職業をしてそういう風に軍もそれで利用して、利益も得たけれども、それはあくまである意味、請負契約のそういう風な年次契約の話であって。そこに国の関与があったにしても、あくまでもそれは委託契約の先の話だから。そこを直接業者の方に任せよというのが出てこない限り、または個人さんを引っ張って、かつちゃんとした業務の一環として認められて行動した書類が出てこない限りは、それはちょっと……。やはり人道的な部分でそこでお金を出すのは別だけでも、それ以上はおかしいでしょというのが私の考え。だから、そういうものの線引きをどこにするのかは、調べなくてはわからないですね。一番簡単ですよ、なかったというのが。すべて拒否できるんだから。そこでとりつく島がないから理論も何もない、議論も存在しなくて。

## 6. その後の状況

首突っ込んでいるのは、最初の入り口はそれだったらすね。事前に知っていた。当時の在特会は、勉強会指向、知識的なものを積み上げようという思想だったので、最初のへんは Q&A とかホームページにも出てたんですけど、今なくなりましたね。まあ、理由はわかりますけどね、大体。私の思うのは、在特会がどうすれば良かったのか、何を選ぶのかは別として、本来であればそこにいったら知りたいことが全部わかるんだよというホームページを作っていれば、もっと違う方向にいったんじゃないかなと思うんです。私はだから本当に初期の考えなんですよね。あくまでも問題を提起する形で勉強会・講演会、調査研究——理論武装というのが目的にあったわけですから。誰と討論するのか、別に討論する奴いないんですけど。

少なくともそうすれば、暴力的な行動するのは単なる一面だけで済んだと思うんです。それがなくてただ単に告知してから「あそこ行くぞ、ここ行くぞ」だけじゃだめなんです。私はだから今の流れというのは、非常に私の価値観からいうとちょっとおかしいな、嫌だなと。実際また逮捕されているし。「何やってるんだよ、本当こいつら」って。

顔出す分には、こっち（支部）はある意味穏健じゃないですか。安田さんも書いてましたけど、個々の話で変な人は少ない。（参加するのは）その後の飲

み会が面白いからですね。他の人もある程度近いんじゃないですか。でなきゃあんまり楽しくない部分があると思います。要は打ち上げですからね。私はそこに特化しているだけであって。下らない馬鹿話ばかりですけど。しょうもない話ばかりしますけどね。1 回乾杯前にクソ難しい話している人がいたんで、「馬鹿野郎、乾杯してから 30 分は馬鹿話するんだよ」って逆に言ったりし。クソ真面目な人どうするですかね、こんなのと私は思ってるんですけど。他の人は真面目なんでしょうけどね。

私はある意味、知的好奇心が満たされる方が楽しいかなという感じ。だから右も左も行きますし。面白そうなら行くという。あそこ（関西）が特殊なだけで、ある意味普通はあんまり問題——へんへんなことやってますが、カウンター街宣の意味がわからないんです。カウンターで街宣しなくていいじゃんかって。何の考えがあるのかなって。結局、表現者というのは批判されるのは当たり前じゃないですか。でも、批判されるのを——自分たちが批判するのに文句を言うのに対して、向こうに文句言うってわけわからなくて。自分たちが理路整然とデモをする、それは私はいいいと思う。おかしいでしょう。考えおかしいじゃねえか、別に違っていいじゃんか。

現場に行つて（直接行動を）ぼーっと見る時はあります。安田さんがいうインタビューの時にはごく普通に受け答えができる、何でこんなに——私もそんなに何で怒るんだ、すごいな、そんなに不満あるんだって思つて。

付き合いで確かにデモの後ろの辺歩いたことはありますよ。でも、それで積極的に何かをとというのはないですね。（マイク握ったり）しません。旗も持ちません。ぞろぞろ歩くのはいいです。何せ私は、首からプラカードぶら下げるあのファッションセンスが許せない。なんであんな格好悪いことできんだよって。あれを嬉々としてやるのがまるでわからない。首から下げると、何だよお前ら囚人かよって。ある意味そうじゃないですか。西村修平さんみたいに字間違っていたらどうするんだよ、本当に。写真撮られたら日本人として恥さらしてるって、馬鹿みたいなことやっちゃダメだよ。

本当の初期っていうのは、結局歴史だったと思います。「在日の存在する歴史」くらいの。最初はそちらの方が強かった。最初はそこ（入管特例法の廃止という

目標が) なかった気がするんですよ。あんまり言  
ってなかった気がするんです。出ていますけど、そ  
こ以前の問題じゃなかったかということです。入  
管特例法の話も出てくるかもしれませんが、それ  
を条文に列記してというのはあんまり出てこな  
かった気がするんですよ。(かつては) 無年金のこ  
とで補助金を出しているところ、だから県内の全自治  
体に電話で状態まで調べてあったんで。今そういう  
ことないから。だから、これ見たらすごいなと思  
います。でも、そういうのが今ないからですよ、「あれ  
れ?」(こんなはずじゃなかったのに) と。まあ私が  
やる気になればできるんでしょうけど、そんなのす  
る気ないし。

なんで(「在日問題」に) こだわるのかなあと思う  
んです。あとまあ、これもちょっと何で出てくる  
のかわからない。創価学会は嫌いですけど、別に  
どうでもいいじゃないかと思うんだけど、あれと同  
じだと思うんですよ。それが正にいわゆるゼノフ  
ォビアというやつでしょうけど、何で不安なんだ  
ろう、取り込んだら面白いんじゃないのという感  
覚ないのかな。そんなかたくなにする必要ないし。  
ちょっと嫌だからといって、そんなに口うるさく  
のしる必要もないじゃん、不安だから恐いんじ  
ゃない? それだけの話じゃない? と私は思うん  
で。

(現在は) そんな積極的に、イーブンで積極  
的に選ぶというのはわかりませんよ。繰り返しに  
なりますけど、最初のとっかかりですと昔から知  
っている。比べるところがないです。結局今、イ  
ーブンで勉強しているわけでもないんですよ。若  
干話を聞いて、救う会のやつがあるらしいん  
ですけど、別に回線がなければ難しいじゃない  
ですか。在特会というのは広報活動しているか  
ら比較的に入りやすい会ですね。年齢層も若い  
し。

(参加してよかったことは) ないとかいいよ  
うがないですね。なぜかという期待してないか  
ら。その意味では。何か得ようとしているわけ  
ではないからでしょ。要は私はある意味、フリー  
ダムなので、楽しめればいいのか。今でも追っ  
ついているものがあるとすれば、知的好奇心を  
満たすということです。一番最初。ああこれお  
かしいな、本当かな、どこでどうしたらいい  
のかな、ああちょうどいい講演会があるから  
行ってみようかな。ただ最近それ関係ない  
ですね。

で、得られたものがあつたのかと言われれば、  
逆に村田さんより情報先回りして、あれれ? と。  
ただ単に自分の解釈能力がなかっただけじゃ  
ないかと。そしてあとは自分も社会経験を積  
んでいったら、ああこんな気づかなかつたこ  
ともあるんだ、出てくるんですね。村田さん  
が来たのがずっと前だから、それから期間も  
たつてくると私も別件とか何とかで調べて、  
勉強することがあるわけで。もちろんこれに  
関係しないことでも。知識が増えてくるわけ  
で、その当時はほとんどなかった、法律の読  
み方とか知識はだいぶ増えました。だからほと  
んど人は、法律といったら法律だけで、それ  
に規則とか政令とかいうのがくっついて来  
て、それをもっと1つの体系になっている  
ところまでは、多分把握してないんじゃないか。

## 7. 外国人参政権について

在日についての問題はどちらかというと(関  
心が) 弱いんですけど、選挙権の方は若干気  
になりますね、職業柄。有名な最高裁の判  
決ですけど、あれは別に違憲でもなんでも  
ないんですよ。ただ、憲法に書いてないか  
ら知らないよ、というだけ。よくよく読ん  
だら。他の人は「違憲なんだ」。違憲じゃ  
ないんだけど。ちゃんとした本を読んで、  
ちゃんとした解析した本を読めば、法律が  
できりやそれまでだけれども、ダメともい  
いにくいんだよというのが、あの判決です  
よね。でも、村田(春樹)さんが来た時も  
そこまで言われなかったですね。でも飲み  
会の時に聞いたら、その通りと言われて  
ましたから。あの人知ってるんですよ、だ  
から。ただ知った上でその行動されるのを、  
私が今更文句言ってもしょうがない。

私は法律ができれば、それは文句は言え  
ません。言いたくても言うべきことでは  
ないです。まあ、悪法も法ですから。た  
だ私はそれについては、やはり若干慎重  
である必要はあるのかなと、少なくとも普  
通選挙と同じ扱いにするのはおかしいで  
しょ。居住要件を満たすというのは必要  
かなというのが前提です。別にお金を払  
えというのはまた別ですよ。ただ、居住  
要件をどういう形でみるかはまた別です  
ね。たとえば帰化したらそれは無条件  
ですけどね。永住権というのが日本に  
あるんですかね。アメリカとか旧植民地  
関係ない部分での永住資格もあるん  
ですか? そういうの(永住者に対する付  
与) はまあある意味いいのかな。逆に  
そう



いう風なのをしっかりしないといけないんじゃないかな。来たんだよ、3年たったんだよ、OKだよ、それはちょっとまずいんじゃないか。3年4年というのが果たしていいのか。

あとまあ、やはり自活できる能力というのをどう見るかですね。ただ、自活というのを必ずしも選挙権のあれじゃないから。ちょっと難しいところだと思いますね。ニートの人、収入がなくても（選挙権は）あるんで。じゃあ、たとえば今お金がなくて税金払えなかった、または今年は生活保護に落ちたんだよと、ただその次の年に税金を納めるようになるんだよという場合にはどうなるんだろうというのが。日本人はそういうわけでしょ、結局、関係ないんだよ。外国人もそういう風に法律より、そういう風な収入とか税金の線引きをつけるのはやはりおかしいかな。そこら辺を考えると、ちょっと条件については相当厳密にしないといけないのかなと。納得できるのがあれば、納得するかどうかは別として、私は致し方ないかなと。ただし、地方参政権なんですよ。で、被選挙権については私はよろしくない、そこまでは認める必要はないんじゃないか。公権力の行使の一環になるわけですよ、議員さんになれば。私はあくまでも地方参政権について条件を付して、法律の整備があれば何の異論もありません。ただそれをつまびらかにしないという、そういうのをしないというのであればそれはちょっと問題ですけど。まだそういう話もないじゃないですか、実際。

## 8. 在日コリアンについて

（在日には）あんまり関心がないですね。犯罪がどうのこうのがありますけど、それは個別の部分があるので、それが民族だからどうのこうのってそこはまた別でしょ。結局金があれば誰だって盗むんだし。大阪人がちょっとけんか早いかもしれないけど、あくまで誤差の範囲じゃないか。それを民族性のどうのこうの言ったらおかしいでしょと。金がないだけなんだから、奴らは。

私も本当にわかりませんね。なんで在日の人たちをあそこまで嫌悪するのか、私にはわからない。それがまさにゼノフォビアなんだろうけど。特権があるという風な前提になっているけど、本当の特権の数そんなないと思う。もうすでに。私も伊賀市にメールしたんで。伊賀市の広報に「こういう報道

がありますけど、どうなんですか」私はメールして、メールもらいましたけど。私も自分で調べはしたんで。あそこの税条例みたらわかるんですけど、免除するためには、免除というのは先に課税とか行政手続きをしたのを申請によって免れさせるわけだから、いったん課税しているはずなんですよ。でも非課税とは違う、だからその書類はあるんですか、そこら辺のメールしたんですね。事務決済規定をみてもどこがどこなのかわからなかったし。多分そこまで知ろうとした奴は、あのと騒いでいたやつはいなかったと思うんですけどね。（返信は）素晴らしいかったですよ。こちらも「こういうことなんですけど、教えてください」とそれだけだったんです。別に抗議のメールじゃなかった。だからちゃんとすればちゃんとなるんですよ。ロートみたいに恫喝しなくていいんだよ。何でそんなことするのか。ちゃんと誠実に対応してもらいましたし、言われたのは「決算書と予算書は図書館の方でも公開してますよ」「そうなんだ、素晴らしい素晴らしい」。そこまでわかるんですよ。ちゃんとすればですね。

盛り上がって来るところに在日がどうのこうのという話をするのは、確かに多いですね。「在日だから」という言い方をされます。それはちょっと私もそこはね、たしなめる必要もないので言いませんけど、在日が悪いんじゃないくて犯罪者が悪いんだと。そういう人が多いだけじゃねえか、たまたまと。表に出るのか、出やすいのかどうかわかりませんが、ただ単にたまたま多いんだよ。悪い人はどこだっているんだから。やっぱり日本の政府の関係もあって、わかりにくいから、ある意味その隠れて見えてくるのはある。だって戸籍がないんだから。自治体のコントロール外にあるわけじゃないですか、ある意味。それはある程度わかりにくくなりますよ。それこそ密入国されてもわからないです。で、ある意味コミュニティがあったら、そこの中に閉じ込められたらわからない。しかも言葉が違ったら日本語ほとんどわからないわけですから。バイリンガルの人間は日本にほとんどいないんですからね、私も含めて。だから細かいところに入り込まれたらわからないですよ。安田さんの本にもありましたけど、外国人の、ブラジルの方々のコミュニティに入ってもわからないでしょう。あの中に私たちが行って、きつと行っても言葉わからないからです。そうしたら本当に、どうなんだろうとか思うでしょうし。顔見てもわからないですね。新しい人が出てきても。新

入りだよと言われて、「この間 10 人だったけど、11 人というのは誰が新しいのかな」きっとわからない。

## 9. 結語に代えて

Y氏は2000年代前半から、在特会会長の桜井誠が運営する掲示板のユーザーだった。その延長で在特会の結成も知っているし、支部での活動にも参加している。しかし、公務員であるということもあって「反社会的」とされる要素には慎重であり、会員にはならなかった。それに加えて、「運動」ではなく本人がいうところの「知的好奇心」の充足に関心があるため、行動ではなく勉強会のような方向を指向している。ただそうした団体がないため、これまでの経緯から在特会に参加し続けていることになる。その意味で、彼は在特会はもう長くはもたないだろうと言いつつも、在特会のような集まる場をどのように確保できるかに心を砕いていた。

こうした当初の路線をそのまま採用し続けているとすると、おそらく在特会はそれほど会員数を伸ばすことはなかっただろう。とはいえ、そうした需要も一定程度存在するのであり、現在の直接行動路線とは異なる組織にとってのニッチは——少なくとも大都市部においては——あるのかもしれない。それ以外にも、単に直接行動で主張することに満足する現在の路線に飽き足らず、行政交渉を中心に朝鮮学校への補助金を廃止するような活動を指向する者も、調査対象者のうち2名いた(両名とも在特会とは別の組織で実践している)。排外主義運動の抗議サイクルが2000年代前半に始まったとすると、その展開に即して組織は分化することになる(Tarrow 1989, 1998)。現在は、全国的にみて在特会以外の組織が勢力を伸張させることはないが、都道府県の水準では分化がすでに進んでいる。今後は、地方における外国人政策と排外主義運動の関連にも目を向ける必要があるだろう。

## 文献

- 樋口直人, 2012a, 「在特会の論理(1)~(7)」『徳島大学社会科学研究』25号。  
 ———, 2012b, 「在特会の論理(8)~(9)」『徳島大学地域科学研究』1号。

- , 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)~(3)」『徳島大学地域科学研究』1号。  
 ———, 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8号。  
 ———, 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45号。  
 ———, 2012f, 「排外主義運動のミクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9号。  
 ———, 2012g, 「在特会の論理(11)~(14)」『徳島大学地域科学研究』2号。  
 ———, 2012h, 「『行動する保守』の論理(5)~(6)」『徳島大学地域科学研究』2号。  
 ———, 2012i, 「在特会の論理(15)~(18)」『徳島大学社会科学研究』26号。  
 ———, 2013a, 「『行動する保守』の論理(7)」『アジア太平洋研究センター年報』9号。  
 ———, 2013b, 「『行動する保守』の論理(8)」『茨城大学地域総合研究所年報』46号。  
 ———, 2014, 『日本型排外主義』名古屋大学出版会。  
 Tarrow, Sidney, 1989, *Democracy and Disorder: Protest and Politics in Italy, 1965-1975*, Oxford: Clarendon Press.  
 ———, 1998, *Power in Movement: Social Movements and Contentious Politics*, second ed., Cambridge University Press. (=2006, 大畑裕嗣監訳『社会運動の力——集合行為の比較社会学』彩流社。)

(付記) 科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。